**幼児礼拝12月②**

**イエス様の教え(２) 種まき**

今回は、イエス様の教えて下さった、種まきというお話をします。

イエス様は、このようなお話を通して、私たちが、どのように生活すべきかを教えてくださいました。今日は、イエス様のたくさんあるお話の中から、「種まき」というお話をしたいと思います。

みなさんがいつも食べている、野菜や果物は、一粒の種からできています。種が元気よく成長すると。おいしい野菜や果物になります。今日はこの「種」についてのお話になります。

昔の人たちの種まきは、種を手でまいたり、小さな穴のあいた袋をロバの背中にのせて、ロバが歩くことによって少しずつ種が落ちる、という種のまき方をしていました。ですので、種はあちこちにばらまかれ、実を結ぶものと、そうでないものとに分かれました。

まず、道ばたに落ちた種は、どうでしょうか？この種は芽が生えませんでした。なぜなら、土の上に落ちているので、鳥が飛んできて食べてしまうからです。

次に、石の間に落ちた種はどうでしょうか？この種もうまく育ちませんでした。種から芽はでるのですが、周りに石が邪魔してしまい、芽が元気よく、伸びることができません。結局、水を吸うことができなくて根が育たないので、枯れてしまうからです。

それでは、いばらの中に種が落ちたらどうなるでしょうか？この種も上手く育ちませんでした。芽は出るのですが、周りのいばらがぐんぐん伸びて芽をふさいでしまいます。いばらに邪魔された芽は、太陽の光を浴びることができなくて、枯れてしまうからです。

最後に、耕された良い畑におちは種はどうでしょうか？やわらかい土の中で根を張り、太陽の光を浴びながらすくすくと茎や葉っぱが大きくなり、とても立派な、実をつけました。

このお話は、ただの種まきのお話しではありません。このお話でいう「種」というのは「神様のみ言」のことなのです。そして、種が「道ばた」「石の上」「いばら」「良い畑」というのは、み言をきく私たちの「心」のことです。

「①道ばたに落ちた種」というのは、神様のみ言を聞いても信じない人です。言うことを聞かないので、サタンがやってきてみ言を奪い取ってしまうのです。そして、聞いてもすぐに忘れてしまう人です。

「②石の上に落ちた種」というのは、神様のみ言を聞いてはいますが、根がないために、少しの間は信じていても、誘惑にあうと、離れてしまう人です。

「③いばらに落ちた種」というのは、神様のみ言を聞いて成長しますが、お金とか、名誉とか、地位とか、楽しみなどの欲に惑わされて、まっすぐに信仰が実らない人です。

そして、最後の、「④良い畑に落ちた種」というのは、神様のみ言を心から感謝して受け止め、み言の通りに生活をする人のことです。

皆さんの心はこの四つの中のうちどれに当てはまるでしょうか？きっと、神様は、皆さんの心が、4番目の良い畑であってほしいと願われていると思います。良い心に神様のみ言の種をまいて、神様の夢をかなえる人になれるように頑張りましょう。